

愛護センターだより

発行: 敦賀市少年愛護センター

住所: 敦賀市東洋町1番1号

電話: 0770-23-0189 Fax: 0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』 都市: 敦賀市

やっぱり紙？

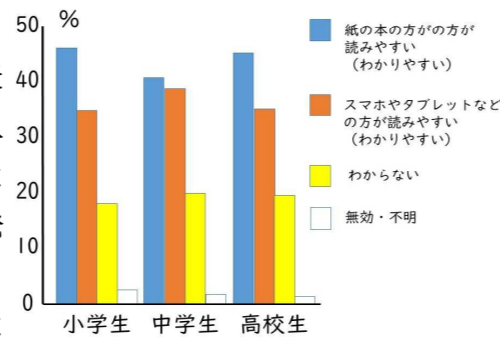
かさばらず検索性も高いなど利点も多く、スマートフォンやタブレットなどで電子書籍やニュースを読む人が増えています。公益財団法人全国出版協会・出版科学研究所の調べでは、2021年の出版市場では、紙の販売金額が前年比1.3%減に対して、電子出版の販売金額は前年比18.6%増（占有率は27.8%）。こういう数字を見ると、出版界のデジタル化が急成長していることがうかがえます。学校で使う教科書もデジタル化を進めていますから、紙の本は劣勢。

そんな中、全国学校図書館協議会が昨年6月に調査したところ、全国161校の小4～高3までの計14,091人の回答から「電子書籍の読書経験がある小中高生は紙の本の方が読みやすいと感じる傾向にある」と発表しました。

また、東京大学の酒井邦嘉 教授（言語脳科学）は「物語や小説など、しっかりと内容を追う必要がある読書には、紙の本が適している」「紙の本の場合、購入したり読んだりした際のエピソードも脳に刻まれるので、読んだ内容も記憶から取り出しやすくなる」「脳は常にアンテナを張っている。紙の本は、表紙や版型、装丁など五感に訴える情報が多いため記憶に残りやすい。小説や教科書のページを戻りながら読んだ体験も記憶を掘り起こす材料になるが、電子書籍のスクロールでは再現が難しい。特徴の少ない電子書籍では、『なんとなく読んだ』という程度にとどまり、読んだかどうかすら思い出せなくなることもある」と話しています。紙の本は五感を使って読むことになり、記憶に残りやすいようです。

2024年から小学校で本格導入が計画されているデジタル教科書。そのメリットとして「拡大表示が簡単にできる」「動画や音声の再生」「書き込みや保存ができる」「教科書上でカードを動かすなど試行錯誤がしやすい」「学習ログを残して生徒別の学力分析などに利用できる」等が挙げられています。一方、デメリットとして「端末の画面に集中しすぎてしまう」「目が疲れる、視力低下の誘因にならないかといった不安」「セキュリティ管理等の問題」「壊れた場合の対応」「お金がかかる」等が指摘されています。こうしたメリット・デメリットを十分把握した上で、子ども達の成長によりよい使い方をしなければならないということですね。

紙の本と電子端末のどちらが読みやすいか



子どもはほしくない？

厚生労働省は人口動態統計により2022年の日本の出生数が80万人を割り77万9728人、合計特殊出生率は1.26とともに過去最低を記録したことを6月2日に発表しました。2017年に国立社会保障・人口問題研究所が「80万人を割り込むのは2030年」と推計を公表しており、それよりもかなり速く少子化が進んでいるということになります。

ダイバーシティ…多様性が叫ばれる今日、その人らしい様々な生き方が認められなければならないわけですが、少子化問題をこのままにしておくわけにはいきません。少子化により、社会生活が維持できなくなる可能性があるからです。

さて、少子化の要因については、いろいろと考えられているようですが、2023年2月にBIGLOBEが「子育てに関するZ世代の意識調査」を実施し、調査結果を発表しました。

全国の18～25歳までの未婚で子どもがいないZ世代の男女457人に、「将来、結婚と子どもについて」質問をした結果が上のグラフです。結婚の有無にかかわらず「子どもはほしくない」との回答は全体で45.7%。男性は51.3%と半数以上で、「将来結婚もしたくないし、子どももほしくない」（43.4%）と回答した割合が最も多いという結果でした。

また、「将来、子どもがほしくない」と回答した18～25歳までのZ世代の男女209人に、「子どもがほしいと思わない理由」を質問したところ、「お金の問題」（17.7%）、「お金の問題以外」（42.1%）、「両方」（40.2%）という結果。

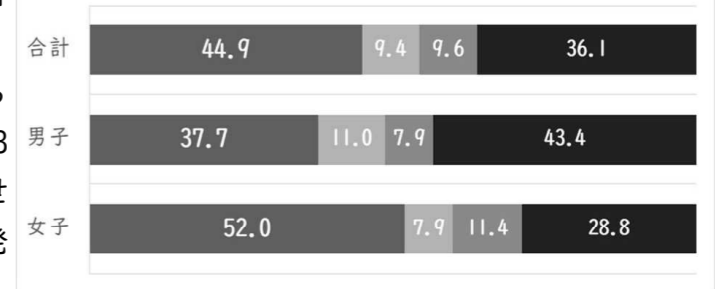
さらに「お金の問題以外で子どもがほしいと思わない理由」は、「育てる自信がないから」「子どもが好きではない、子どもが苦手だから」「自由がなくなるから」が上位となったということでした。

政府は「異次元の少子化対策」を考え、実施しようとしています。しかし、未婚の若者の意識は…。

子ども達が「結婚」や「子ども」について考えるときに、テレビ・SNS・雑誌からの情報が大きく影響することは考えられます。いろいろな情報の中で、しっかりと考え、自分らしい生き方を選択していけばよいことです。ただ、いろいろな情報の中には、プラス面も必要でしょう。まずは、家庭で、子ども達が「家にいると気持ちがやすらぐ」「家族と一緒にいると幸せ」…と感じさせたいものです。笑顔が溢れる家庭の中で、人生を考える場所づくり…ということでしょうか。

将来、結婚と子どもについて

- 将来結婚して、子どもがほしい
- 将来結婚というかたちにこだわらなくても子どもはほしい
- 将来結婚はしたいが、子どもはほしくない
- 将来結婚もしたくないし、子どももほしくない



お金の問題以外で子どもがほしいと思わない理由

育てる自信がないから	52.3
子どもが好きではない、子どもが苦手だから	45.9
自由がなくなるから	36.0
日本の将来に期待できないから	25.0
子どもを育てにくい世の中だから	20.9
仕事と育児の両立が大変そうだから	18.0
健康上の理由から	16.9
子どもを持たないという選択も増えているから	14.0
子育てでもめている夫婦を見るから	12.8
パートナーとの協力が難しいから	11.0
離婚するかも知れないから	8.7
戦争・環境問題・災害など未来が心配だから	7.6
その他	5.2

大きくなったら…

昨年度も記事を紹介しましたが、「大人になったらなりたいもの」についての話題。

クラレがランドセルを購入した子どもを対象に、令和4年7月～令和5年1月までに男女各2,000人に「新小学1年生の将来就きたい職業」調査したところ、

女の子は①「ケーキ屋・パン屋」②「芸能人・歌手・モデル」③「花屋」

男の子は①「警察官」②「スポーツ選手」③「消防・レスキュー隊」

と、昨年同様の順位だったと、4月4日に発表しました。

一方、第一生命が全国の小中高生3000人を対象に「大人になったらなりたいもの」をアンケートし、その結果を3月16日に発表しています。それによると、小学生男子、中学生男女、高校生男女の第1位は「会社員」、小学生女子も第3位という意外(?)な結果でした。

小学生	男子		女子	
1位	会社員	10.5%	パティシエ	10.5%
2位	YouTuber/動画投稿者	9.0%	漫画家/イラストレーター	8.7%
3位	サッカー選手	7.4%	会社員	6.7%
中学生	男子		女子	
1位	会社員	17.8%	会社員	13.8%
2位	ITエンジニア/プログラマー	7.4%	漫画家/イラストレーター	8.5%
3位	公務員	7.2%	公務員	6.5%
高校生	男子		女子	
1位	会社員	27.3%	会社員	15.7%
2位	公務員	12.3%	公務員	9.4%
3位	ITエンジニア/プログラマー	9.7%	看護婦	7.2%

どんなものにもなれるような気がする夢いっぱい的小学1年生が、入学後いろいろと学ぶ中で、将来像が成長とともに変わっていくのは当たり前なのですが…。



「会社員」がトップと聞くと、「もう少し夢のある職業に…」と思ってしまうかもしれません。しかし、その業種を見てみると「科学技術・ものづくり」や「商社」「旅行・レジャー」に多くの回答が集まったようです。また、「商社」と回答した中には、「いずれは自分で色々と考えて起業したいから」と起業に向けたキャリアを想定したコメントもあったということです。自分の夢が個人でできることなのか、組織で取

り組んだ方がよいことなのか。自分の夢を叶えるために、すぐに起業した方がよいのか、まずは会社で働いてノウハウを学び、資金をためた方がよいのか。いろいろと考えていることもうかがえます。

昨年のサッカーワールドカップや今年のWBC、アニメの「SPY×FAMILY」や「鬼滅の刃」等々、その時の流行によって憧れの職種が変わることもあるでしょう。コロナ禍からの回復が見込まれる「旅行・レジャー」業や「チャットGPT」などAI（人工知能）の活用からデジタル技術の活用を視野に入れた「科学技術・ものづくり」に関心が集まる社会の動きに影響されることもあると思います。いろいろな職業を知り、自分の適性や興味関心等自分について考え、将来を選ぶ力や目標に向かって取り組む力を育てていきたいものです。でも、その第一歩は家庭内でいろいろと話す機会を持つことですね。



青少年への愛のひと声活動……補導日誌から



○4月16日(日) 15:00～

4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化され、保護者は子どもにヘルメットをかぶらせる努力をしなければならないにも関わらず、友達同士で自転車走行するのを見ると、ヘルメットは不着用。小学生は校区によって異なるが、中高生はほとんどしていなかった。保護者や学校に働きかけてほしいと思う。

→小中高とも学校で家庭生活での自転車乗車についても安全指導を行っています。ただ、ヘルメット着用は「努力義務」であり、強制力を持つものではありません。そのため、保護者にヘルメット購入・着用指導をお願いする指導となっています。

○4月19日(水) 15:00～

マクドナルド付近で私服の高校生らしき女子2人組が煙草を吸いながら歩いていた。走行中の車からは声かけできなかったけれど、どのように声をかけると良いのか考えてしまった。また、今週月曜日にちえなみき2Fの幼児向け絵本や机が置いてあるスペースで高校生カップルがいちゃいちゃキスをしたりしていたらしい。店員の話では周りに人がいなかったそうだが、どのような対応が適切なのか相談された。

→20歳未満の喫煙は「二十歳未満ノ者ノ喫煙ノ禁止ニ関スル法律」に違反します。言葉かけをするチャンスがあれば「いくつ?」と尋ねると、喫煙してはいけないことは知っているようで、きっと20歳以上の年齢を答えるでしょう。その場で喫煙を厳しく注意するよりは、「見られている」「悪いことをしている」と意識させることが大切だと思います。喫煙を止めるかどうかは、本人・家庭の問題であり、そこに任せるしかありません。

また、「いちゃいちゃする高校生」については、周りに誰もいないと思ってその場所を選んだと考えられます。店員さんや補導員さんが、どうしようと巡回すれば行動を慎むでしょうし、「仲良しね!」ぐらいの言葉かけから会話が始まり、自制を求めることができるかもしれません。また、言葉かけ自体が煙草の件と同じで、場を考えるようになると思われます。

○5月16日(火) 15:00～

ちえなみき周辺に制服姿の高校生が大勢いた。試験期間とのことで、芝生で遊んだり、外のテーブルと椅子で勉強したりしていた。ちえなみきの店員さんは、「昨日もこんな状態でボールがガラスに当たったり、外設置のテーブルや椅子が占領されて使えない」「幸い平日でランチ時間帯も過ぎていたものの、とても迷惑している」とのこと。芝生の使用などルールがないため、今のところ対策を模索中。

○5月23日(火) 15:00～

早い時間帯は、下校見守りとしてステッカーのついた車で回ると目立って良いと思い、学校付近を回りました。ゆっくり走っていると、子ども達の中には、車をじっと見て頭を下げてくれる子もいました。こうやって巡回していることで、子ども達が安心して過ごせる町でありたいと思いました。

